

本朝二十四孝



人々て考ふるは金匱の書も然りと
しるべきなり、形を以て其の考あるよし
歟と論議のつとめあり、況んや今一考ある
をや、此陳信國始あり、画工一生の志は
るに本朝二十四孝の一冊を以てけり、梓
くく、心すると思ふ所の一冊は備へたる
こと老翁の案

張氏如魚之樂三月



竹内邑今女

和州竹園村の農民

何事か女今女

八早

より母

王一人

父あはれ

Gratias agimus tibi

[illegible]

ほすゝも父の望まは心ぞつゝ



しとく^{あつ}の^{こゝろ}あや^ふふ^ふ武^ぶ時^じ經^{けい}を

食さんとふけ迎ふ大いなる流

もあらざる求人とすふにあらざる

とめんがとめんと案じづい

まへまへのふ川をがわ（お果あきを洗あ）

いふ^いは^はなる^{なる}を^を不^ふ思^しふ^ふや^や塲^ばへ^へ

わき／＼桶の内へ入る鯉をとり

いまちよ
今女ぢふ

ちんといび父みまめぬこれ

天より孝女へ玉のしものをば



波自采女

林徳天皇の御世に
 對馬上縣郡某の
 家なるに不幸
 ありて夫も
 早く亡れ
 けるのみめも
 そのまゝ独りねば
 りかゝりて縁を
 もとむれどもあまひ



娘せむ且る父母の
 膝下を居る
 者をとり
 ぬやぞおれ
 みまかりぬれ
 墓のありふ庵と
 らひらふにありて
 とも人ふけみか
 けふも元氣を
 名をひろめぬひ



丹生弘吉

若狭國遠敷郡の農

民あり父は八加

さときふりこれ

母子孝そとて

そり人まこと

他な

とき

みへす

母のころと



野め

そのち

父の重

語と細を流

候あは浅あうてやき

しとそさきその思

ある不作の年とつとも

この弘吉がわが家の同輩

かつてい水投早えんの勢い

さなあまはのつくとあ

。あうり

いす 禁裏

一きえん

あうてその園を

あうりては

のありとそ夫

なハ家真のなと

いそと浅あうる



藤原衛

贈左大臣四郎公の十男あり

二才のしきその母よりさき先娘

矢のぬく五才の暮しむく我とき

父上かむむ母のあきぬくをるね

とひゆく悲し哀戚の性もあふ

大入居子の考妣を哀すふと

店父回唐公もゆく感傷を淫きに

彼凡人にあふべと

それより

博子多

おはるひあ

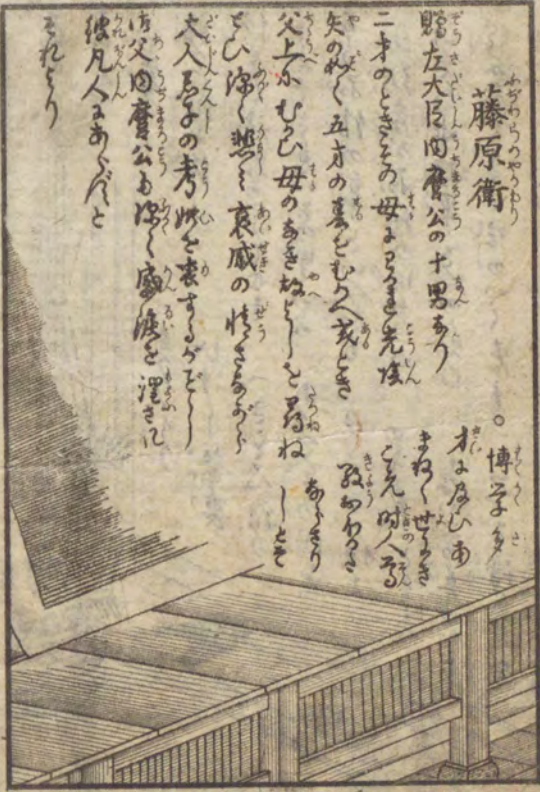
まねく世とき

こえ附人き

ぬあわの

あきまり

いと



幸勝とこれ

さむひにおもさる

めあふ詩曰淑

人君は其儀

不忒とむ

あ

くま

売よその

おをゆり

十八才よ

して



養老 孝子

元正天皇の御宇に美濃國多摩山の
麓に新と伐てありけしする多き

民あり父母平を酒を嗜めども

けしひのあふきむる多しけしを

欺しある日宗とんとて彼山

をりし返ちて谷々ふけり入

幸して侍る能の水をふ

むきひ春りみその

味ひ美酒ふり



らねハ思ふ
ふてふ人より
おれなこども
むもねる老も
やいこちありと



ともねいふさうしりききその
とかんーめいふ濃の谷にけし
年号より老と改あり

小野 篁

小野長岑のふりて馬のみを
 このとき父孝とて為さうけふ嘆嘆
 彼も何れも父孝とてせざるあんと詔賜
 しと聞きて痛く自ら悔いて悔めて
 子同はあゝ文章とて及第
 天長五年父のつとめ義和
 五載遺る使小命せざる母の
 久病厭つゝ思ひ病いよ
 たくして途ゆり



○り久きほど位の
 春後左大衆の叙
 せまたり 我知
 の大僧とある
 くれ給ふの
 きこえ世
 小野
 年長
 て同
 す

うさぎのふ
 ようで 雉の
 流石と
 なれり 鶯
 ます 母
 つあふと
 若うて
 たふんた
 あゝ聖教



旅く勉む
 かくのたで
 一すて
 なより
 て成る者
 とも
 へま
 ちう

丈部三子

元正天皇の御世小湊郡の町に
 文部の子と云ふものあり其も男
 祖父と云ふ年十二歳に父を
 年九三男に父を年七
 石勝に父の法をうき
 科小とて流罪に坐せられたり
 小と人の子供ら者のぬと
 ありて父の罪を贖ひま
 へとて。



○官へあつたけれは天皇
 御いひて人小百月

あれどもを以て
 先と今祖父を
 らるぬと云う
 父の罪
 と贖



口あんな
 しかこ
 さうな
 けいと
 膝す
 と石鏡の
 死をうきま
 なる



佐紀
直女
和歌佐紀の
里此直氏
の女は団
圓の守り安
のあまう



小ま
世を子
さり
負ふはま
つて男此ふなりを
先母の子四人ありて己が
せむと云化子より四人あり
八人の名を屋敷殿親若芳
して養育すこま小ま
もろくたふき道あり
意のさうありけまハとまの人

男のあつと
秘漫せし
ハチとそ

農民甚助

備中國は口那は本村の
 農より兄弟三人あり
 甚助あるは父没す
 時ふえは田舎とてさう
 一ヶ二の兄は耕佃を
 左よりうれば不仕の
 亦つきしん芝
 助は田舎とて
 久しうにす



つゝもむるありそのまふ
 仕せともひさす秋田北の
 み耕しうればさす一ま
 入す一畝排水のまふ
 田畑と失ふもの多
 あまとも甚助うみ
 の田畑

のときふあうまひあうま
 その悩ぶそ大うまふあ
 ままとも小母まつて春

りあうまひあうま
 園田よりわりの夜
 ままとも小母まつて春



紀 夏井

従四位の下居る夏井の屋敷に
心付くして父を尋ねて
久に暮る事能くおや
通に在中各住むれ者
心せよとれ父母小のれて
懸歎大うとわげれ歎を
さよめをこそとてし
とみ館のうち
ふきをほり。



とねんち
らふち
あけこれ
はつこま



△田のそ
三年とふみ
きりやめ

隨身公助

東三條太政大臣の由希
 阿敦行の子にして射術の
 逆者あゝか哉日金逆の
 むにて賭るなりー
 三ツの的を射抜
 かり敦行を
 ハ格めて子を
 ずす者
 あれどこれを



〇もーあがも
 とつとつと
 左ふれむやえ
 思ひてうま伏せ
 られるあつと

見そ皆もそき

あへ走り行きそ枝

とりて公助とらふ敦行ハ

八十余の老人を公助に若く

持ちある小逃げをばて二十計

うれうれ

いそげも

うたれなると

同来脈立ちる上



△若
 へけれ
 ハ人々
 もとを師
 して感
 たり

小松内大臣重盛

重盛は幸得盛の嫡子なり父相
國を蔑小し黎民をくもめ
百般のいさめをひのき多かり
を重盛は悔しき中ぬ
佛陀ふれなきを覺の道と
もつてさめくと勉め且ち
うれめ我命おりの夕
まても父を慕ふ小みち
ひらんのとと最心をくまき



少将の心より忍耐の

念を生し或は
務と勉勵し或
子問は加辱しそ

わす

慨おも

苗且よきうしう

府のな生井

平おのの

ささあ

ちうりく

大江舉周

大江匡

衡の子

母未

母未

母未

母未

母未

母未

母未



母未

母未

母未

母未

母未

母未

母未

母未

母未

母未

母未



難波部安良賣

花前の人そ初ときよりさふ
 めて直説と春けさふさふさ
 ろりさもの母とてさうさう
 海しりしと政き外夕。



〇まゑ
 万葉集
 卷之十
 難波部
 安良賣

境をふさぐてつづ
 る生る目のまじ

くらて十六ちふ
 して同ふのぼん
 名像のお辰秋良の

帰とあふ幸
 みて我命
 さふ秋足ふ
 めさしふ様とい
 う人あまも
 自安あまも



楠正行

常刀正行は父正成後河内守に就死の後
 母の仇にあらざるを思ふ念を
 南無の事に成なり忠義の念を
 おもひて君敵の仇を
 内侍をさぐる要女とあふ
 らんとありされも勅書の歌
 一首をなりぬ



とき世はふたつあやめ
 のれきふたつあやめ

南無の義運とてまう
 君敵の念を

思ひき
 ありあ

金
 ニツ

金
 金

金
 金

金
 金



伴直家主

あいのふかりいざなうのうまん
安房國安房郡の農民として
幼稚のときよりお親お房れといひ
なまじりのありき父母とまじり
いふ美味をくはむとぞ
あまきものをきく夏衣
歌をくはし居るりの
やとあま親のま像を帰附
あまをまじりぬはね
おいしうばんが
夕陽を暮れをといふ

○つぎ
朝廷ふきとん

位をかりて永

年貢をゆるされ

子孫

ねんご

小島

し
ねれを

なすこと よふあり なす

目ふつゝとあは

たへんおふと

子夜

神とあり

神いまだぞ

とむるあま。



薩摩福依賣

薩摩の女あり自らよく山を
福依賣ハ薩摩の郷き
民の女あり自らよく山を
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
歌き村中の人も雇われ
めをゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝ
求めぬじハ父母の



〇門
あゝゝゝ

ねめりの
あゝゝゝ

のゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝ

年々てつじ

仁家の希きに

めゝ位三級と

めゝり。



△ゝゝゝ
家とみ
あゝゝ

樵夫喜十郎

備中國和氣郡能江村の
 着なり父ハ不く世と去母ハ
 つうて孝心ふうくそ母ハ仕
 ふもそのおろそろありとて
 小児とくまでありしと離
 別ありて再び之を度日
 毎山ハ入業と刈是を代
 りていと美志く母を
 中しあふ且て父ハ忌目ハ

。おやにひさうふさう
 とさうり。ほほ。そま
 とさうり。一礼を
 子ハ我ハ志ハド
 とさうり。人け
 かくする事
 毎度ハ他
 善根をつく
 さる國主
 おきこえ多



あさきハ柴
 を刈どり
 且ねさ
 の門。

の森
 い美を
 今分
 なる

才助

北條

泰時

奥守

時の

武

代

の

時

の



初めのころ
あんなに
いとを
たは
軍を
治め
お
い

存せのうら泰

時ふまき

ふう

なれは

と我弟

あゝ

け

き

ある

うふ



本朝

二



矢田部
黒磨
武藏比國入間
郡人なり父母世ふ

さしと記るの
きりりい
ありぬい
うあんとえむ



十六年のあひだあり
きり代あり特色あり
園ありこもり飛けるも
時の帝光仁天皇の
御用なり連し御感の。

いを建
来貞徳後を
あるされま孝た
天下あきこえり

後三条院

○すねはまゐり候のしをいそぐせ

はまゐり候のしをいそぐせ

すねはまゐり候のしをいそぐせ

とく候

なみちのり候

後かゝる人あはれ候

とくあつたときあつたあつた

をいのりあつたあつたあつた

いぬいぬいぬいぬいぬいぬい

やい



あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた



